

各水試発トピックス

紋別で捕れた透明なイカ

6月3日の朝、紋別の加工利用部から写真付きのメールが届きました。「今朝、紋別漁協から透明なイカが持ち込まれました。胴の長さだけで30cm以上ある大型のイカです。脚部が透明で、内臓や魚箱の底板が透けて見えます。定置網で漁獲されましたが、何イカでしょう？」との内容でした。



写真1 加工利用部で撮影された透明なイカ

調査研究部にはイカを専門にしているメンバーがいないため、透明なイカの写真を2人の専門家に送り、コメントをいただきました。

国立科学博物館の窪寺恒己博士と東京海洋大学の土屋光太郎博士によると、寒天状のイカはテカギイカ属の種類らしいことがわかりました。寒天状になっていることから、産卵後のスペント（疲弊個体）と判断されるとのこと。つまり、産卵を終えて死にゆく個体だったようです。オホーツク海ではテカギイカ属のササキテカギイカがときどき漁具にかかり、2009年、2010年に斜里から知床方面で採取例があるようです。写真2左は2009年の斜里で採取されたササキテカギイカのスペントです。今回の透明なイカそっくりですね。写真2

右は元気なササキテカギイカです。胴の長さ約30cmの堂々としたイカです。透明なイカとほぼ同サイズで、触腕（2本の長い腕）の先端部分（赤丸）にテカギが認められます。しかし、透明なイカも産卵という一大事業を成し遂げ、すべての力を次の世代のために出し尽くした姿だと思えば、神々しさを感じませんか？

写真1の個体は冷凍して、窪寺博士に送りましたので、透明なイカがササキテカギイカかどうかは間もなく判明すると思います。

今回照会のあったイカについて丁寧な情報提供をいただいた窪寺恒己博士、土屋光太郎博士には改めてお礼申し上げます。

（宮園 章 網走水試調査研究部）



写真2 左、2009年に採集されたササキテカギイカの産卵後のスペント個体：スケールは15cm

右、ササキテカギイカの元気な個体、赤丸は触腕のテカギを示す（写真内赤四角はテカギの拡大図）：スケールは30cm

（写真提供：窪寺博士）